



この絵の題名：「おとうさん」

No.213

2021.Mar.



荒井園長 編

ありがとう！

今年度最後のカルミアとなりました。

前回は R2 年度を振り返ってみましたので、今回は新型コロナウイルス^{かんせん}感染により、さやま園がどう変わったのか、いくつかご紹介致します。

まず、一番大きく変わったのは、家族との^{つな}繋がりとして大事にしてきた帰宅が出来なくなってしまったことです。職員は利用者の生活を一生懸命^{きゆうくつ}支え、利用者一人ひとりが豊かで安心した生活が出来るように日々努力しております。しかしそれでも家族と会った時・家に帰れた時はとても嬉しそうな顔をします。家族との^{きずな}絆がどれだけ利用者にとってかけがえのないものかを実感します。(利用者の高齢化に伴い、帰宅できない方も相当数増えています・・・)

次に、各行事でしょうか。運動会から始まり、春の集いで終える様々な行事の中で、地域の皆様と一緒に楽しんできた夏祭りやさやま園祭は、園内行事として工夫を凝^こらして行いました。クリスマス会や新年会なども密を避けるために二部制にしながら、行事担当者が色々なアイデアを出し、仮装した職員も^{はじ}恥を投げ捨て、これまでにない楽しい催^{もよお}しとなりました。

外食や旅行も感染を^さ避けるために中止となりましたが、デリバリー(ピザ、ハンバーガー、スパゲッティ、ハンバーグなどなど)で楽しむようにしました。

職員の研修もほぼリモートとなりました。やってみるととても便利ですね。しかし、個人的にはその場の温度を肌で感じながら意見交換するほうが、少々脱線してもやはり楽しく感じます。これからは効率性を考えながら内容等によっての使い分けとなるのでしょうか。

しかし、窮屈^{きゆうくつ}な生活が続くことには変わりはなく、「これ、いつ終わるの?」という利用者からの質問に、「神様に聞^むくしかないね」と答える虚^{むな}しさがいつまで続くのか。こんな状況でも、我々以上に我慢^{がまん}をし、普通に生活してくれている利用者の皆に感謝です。

マイナスとなった生活でも、これを機に得たものも多くあります。新型コロナウイルスが終息した暁には、利用者とともに大宴会でも開きたいものです。

ここで一つ告知です。さやま園のホームページがリニューアルします。新しいホームページでは、これまで発行した過去のカルミアがご覧いただけます。新しい生活様式の中で、パソコンやスマホを見る機会が増えていると思います。さやま園のホームページにもアクセスして頂き、利用者の皆さんがどのような生活を送っているのか垣間^{かいま}見て頂ければ幸いです。



2 階のお風呂 リニューアルオープン！

さやま園 2 階のお風呂が、昨年の 2020 年 10 月からリニューアルオープン！
実は 2019 年に工事を行い、リニューアルする予定だった 2 階のお風呂。
諸事情によって工事が遅れてしまい、2020 年に工事を行いました。そんなこともあり 2 階の
利用者の皆さんはお風呂がリニューアルオープンするのをとても楽しみにされていました。

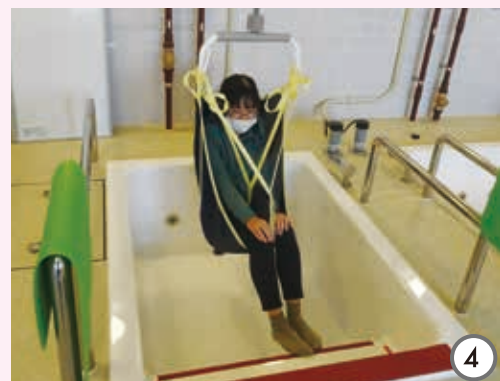
さてそんなきれいになった 2 階のお風呂を紹介したいと思います。

- ① 各シャワーブースには手すりが設置され、立ち上がりもスムーズに。
- ② お風呂は 2 つに分かれ、自宅のお風呂のようにリラックスして入ることができるように。
- ③ ミスト浴も設置。怪我等で入浴が難しい利用者さんも体全体をあたためることができるようになりました。
- ④ 天井走行リフトも設置され、入浴時の段差の昇り降りが難しい利用者さんも安心して湯船につかることができるようになりました。
- ⑤ 追い炊き機能も追加され、床もあたたかく滑りにくくなり、利用者・職員ともに安心して入浴ができるようになりました。

*①②③④写真参照

リニューアルした新しいお風呂について利用者の皆さんに感想を伺うと、
「全身、お風呂にゆっくりつかれるようになってよかった」
「手すりが付いていて、安心してお風呂に入れる」
などなど皆さん、新しいお風呂に大満足な様子。

新しくなった 2 階のお風呂。職員も利用者の皆さんが快適な時間を過ごせるよう、
きれいに大切に使用していきたいなと思います。





さやま神社

はつもうで
初詣

お正月といえはなんでしょう?美味しいおせち料理やお雑煮^{そうじ}、届くのが楽しみな年賀状、何に使うか迷うお年玉(読んでいる方の多くは渡す側でしょうか)、羽根つき^{たこあ}、凧揚げ、福笑い…そして忘れてはいけないのは初詣^{はつもうで}!旧年の感謝^{きかん}を捧げ、新年が良い年になるよう祈願します。今年^{ことし}は新型コロナウイルスの影響で利用者の皆さんが楽しみにしている年末年始の帰宅も中止に。さらに外出自粛^{じしゅく}のため初詣に出かけることができなくなりました。また、さやま園利用者の皆さんも高齢になり全員が初詣へ出かける事が難しい状況です。実際に初詣へ出かけることができなくてもお正月気分を味わい、新年の願掛けをしよう!ということで昨年度から始まったのが初詣企画「さやま神社」です。今年度は行事として実施されました。



とりのい ほんでん さいせんばこ
ホールに鳥居や本殿、賽銭箱が設置され、実際に神社にいました。神主や巫女さん、
ご利益のありそうなお地蔵さん(?) もおり、初詣定番のおみくじや甘酒を配ってくれました。



ちようずしや
まずは手水舎でお清め（手指消毒でコロナ対策ばっちりです!）⇒ 鳥居をくぐり… ⇒ 参道を通って参拝。
さいせん
お賽銭はいくら? 皆さん何を願いましたのでしょうか。 ⇒ 参拝後はおみくじと甘酒を楽しみました。



外出が難しいご時世ではありますが、季節を感じるということは私たち日本人の楽しみでもあります。園内でも利用者の皆さんが季節と共に楽しく過ごしていけるよう工夫しています。2020 年はコロナウイルスに悩まされた 1 年でした。来年のお正月はいったいどんな世の中になっているのでしょうか。今年も元気に、楽しく、健康に。さやま園は賑やかな 2021 年のスタートです。

※ちなみにお賽銭は穴が開いている 5 円玉、50 円玉は「見通しがいい」という願いが込められており縁起が
いいそう。11 円「いい縁」、115 円「いいご縁」などの語呂が良い金額もおすすめです。反対に 10 円「遠
縁」65 円「ろくなご縁がない」など悪い語呂もあるため要注意…。初詣は年が明けてから初めて参拝するこ
とをいい、お正月に行く決まりはありません。まだの方もぜひ良い語呂のお賽銭を準備して出かけてみては?
もちろんソーシャルディスタンスも忘れずに…!



わかばグループは男性のグループです。特に平均年齢も園の中では若く、がっつりと食事を摂る利用者が多いです。そのわかばグループの食事をご紹介します。

わかばグループの中には、大きな器に食事が盛られる利用者があります。実はさやま園では、黄緑・緑・青・赤・白と色名で呼ばれる、食事量が異なった配膳が行われています。

黄緑：ダイエット用分量

緑：女性の標準量

青：男性の標準量

赤：主食のみ標準量の1.5倍

白：主食・副菜とも標準量の1.5倍

という具合です。



主食



副菜

ご覧いただいてわかる通り「白」というのは、かなりの量となっております、

「白」食があるのは、わかばグループだけです。やっぱり男性たるものご飯は沢山食べたいですね^^

それぞれの利用者の食事は、職員・栄養士・医務と連携しあい決めています。



配膳車の前でキメてるTさん♡

また、わかばグループは南棟という場所で普段食事をします。

他のグループは本棟で食べたり、南棟で食べたりと様々です。

左の写真は本棟にある温冷配膳車です。

本棟と南棟では配膳方法が違います。本棟では自分でトレイを取って食事を摂る利用者もいますが、南棟では職員が配膳します。

どうでしたか、グループによって食事の量、配膳の仕方が全然違うのです。今回は男性グループのわかばを紹介しました。

with
コロナ

コロナ禍のため、なかなか外食もできない状態ですが、さやま園では給食以外の食事を、時々デリバリーして楽しんでいます。



GALLERY さやま園内のギャラリースペースの展示内容のご紹介

No.8 (展示期間 2021.2月～)



「ひで子さんのアートな日々」展 林 秀子さん作品展

林さんにはルーティーンワーク（こだわりの日課）がある。

くれあ（創作活動）の時間

- 「刺し子をする」
プライベートな時間（主に16時以降）
- 「決まったモチーフの小さなイラストを描く」
- 「折り紙を折る」
- 「ひらがなと数字を学習帳に書く」

誰に頼まれたわけでもないのに、彼女は毎日それをやる。林さんの「こだわり」がそこにある。「こだわり」というと、障害の要素の一つでネガティブに捉えられることもあるが、別の側面から見ると「個性」とも言える。アートにおいてはオリジナリティーは重要で、その観点から見れば「個性」こそが価値あることだと思う。

これらの制作物は林さんの言葉の代わりの表現のようにも思える。それぞれ単体では取るに足らないようなモノたちも、けいぞくせい継続性とそれに伴ってできた圧倒的な量は、見る人にインパクトを与える。

今回の展示では、その量感を見せることにより、彼女の豊かな表現を知って欲しいと思った。

頭に被っている三角巾は、林さんのトレードマーク。これも「こだわり」。



くれあ担当職員談

彼女の達成感たっせいかんは、いったいどこなんだろうと思った時があります。できた「刺し子」の作品を、職員たちがバッグにしたり、ランチョンマットにしたり・・・するのですが、そこには1ミリかぶも興味がないのですから。（笑）ただただ、「彼女時間」と「作業」はつながっていて、一日の大事なひと時なのだ!ということ は理解できます。そのくらい真剣な働きものです。

さやま園の陶芸

『いろんなカタチ・土いじりでリラックスな活動を』



陶芸活動はほかの活動とちょっと違う雰囲気ただよを漂わせており、土のひんやりとした感触にほっとしたり、心を穏やかにしてくれます。

職員のつづやき

早いもので、今年の3月で定年を迎える年になりました川田です。

思い返すと、さやま園に転勤になり、私の目にしたものは、さながら昭和初期の生活様式でした。居室は畳で、押し入れから布団を出し入れして、服をたたみ風呂敷に包み頭の上に置いて就床しゅうしょう、お風呂はタライにお湯を溜め柄杓ひしゃくで流していました。4月・春は初めの会とお花見で始まり、お弁当を持って出かけました。6月・運動会では、パン食い競争がありました。アンパンをゲットした人の勝利者の顔が印象的です。8月・夏まつりには、縁日や花火そして、御近隣の方達も参加して下さる盆踊りは、老若男女問わず踊る姿は圧巻でした。秋は、大根堀りに出掛け、その大根や利用者さんが作った作品の展示発売を行いました。また、さやま園祭では東村山中の人達が朝早くから、門の外に並び開園を楽しみに待って下さる姿が目焼き付いています。大晦日は、紅白歌合戦を観覧し年越しそばならぬ、カップラーメンで盛り上がり、新年を迎えました。1月・新年会・成人式かんれきと還暦きじゆの祝いでは今でこそ成人式の利用者さんはいませんが、其の頃の園では成人を迎える方達がいたのです。そして、還暦の方達は、好きな着物やドレスを選んでお化粧もしてもらい、記念写真やお祝いをしました。2月・立春。豆まきは年女の方達が大きな声で鬼

退治をしました。3月・お別れの会では、園生の人達が、壇だん上で立派に挨拶をして社会に羽ばたいて行きました。長い時間を皆さんと過ごしましたが、どんなに頑張っても、御家族には勝てませんでした（笑）。それ程利用者の方達にとっては、御家族と過ごす時は、かけがえのない物だと思っています。

コロナの為会って御挨拶が出来ないので、保護者の皆様方には、此の紙面をお借りして、心から感謝御礼申し上げます。最後に書ききれない程のエピソードや謝らなくてはいけない失敗はありますが本当に幸せでした。

さやま園の利用者、職員の皆様と過ごす事が出来て、心から感謝申し上げます。

川田



編集後記

寒い冬が過ぎ、春らしい日差しを感じる時期となりましたね。早いもので今年度が終わりを迎えようとしています。皆さん、この一年はどのような年となりましたか？多くの方が、コロナウイルスを思い浮かべるかと思います。コロナの影響により、私たちの生活はこれまでとは一変しました。さやま園でも外出制限や行事縮小など、これまでとは違った1年間を利用者・職員共に過ごしてきました。そんな中でも、変わらないものもあります。それは「笑顔」です。コロナ禍でも、利用者さんは元気な笑顔を私たちにを見せてくれます。そんな利用者さんの笑顔を見ると、つられて笑いたくなり自然と元気が湧いてくるんです。笑うことは生きる力の源みなもとだと改めて気付いた一年でした。

